

## 1. 電子小黒板でできること

電子小黒板とは従来の物理的な工事小黒板に代わり、スマートフォンやタブレット(以下スマートデバイス)上で動作するアプリケーションによって生成した電子的な小黒板画像を言う。同アプリ上でスマートデバイスのカメラ機能によって撮影した画像に小黒板画像を組み込み、従来の物理的な小黒板を写し込んだ写真と同等の工事写真を撮影することができる。



写真-1.従来の工事写真(左)と



電子小黒板を写し込んだ工事写真(右)

工事名	田尻地区函渠その6工事
工程	場所打ち函渠工
測点	B16 STA143+50~60
鉄筋検査(側壁内側) 外回り	
鉄筋かぶり確認	
主筋(せん断補強筋) 測点t2	
設計(mm):140(80)	
実測(mm):160(95)	
立会者:小川出頭所長	
施工者:清水・銭高 特定建設工事共同企業体	

これにより、従来苦勞していた雨天時の黒板記入の改善や黒板の持ち手が不要になることでの省人化、黒板の空中配置等が可能となる。

また黒板の内容はテキストデータとして画像ファイルのデータ領域

(EXIF)に格納されるため、2 次的な活用も期待できる。日建連の試算では、工事写真の整理に要する時間は、1 回あたり60 分/1 週間分⇒5 分/1 週間分 となることが見込まれている。

## 2. 信憑性の担保

このような電子小黒板技術はなにも最近開発されたものではなく、何年も前からスマートデバイス上のアプリとして散見されていた。しかしながら国土交通省では過去に起きたデジタル工事写真の改ざん事件を受けて、画像の回転や明るさ補正を含めた一切の画像改変を禁止している。電子小黒板については、撮影した写真に小黒板画像を組み込む行為は画像改変には当たらないとしており、今回の仕組みの中には信憑性担保のための改ざん検知機能を有していることが大きな特徴と言える。施工者は一定の要件を満たす改ざん検知機能を自社ツール等に組み込むか、下記を参照して対応する市販のツールやソフトウェアを確認して使用する必要がある。

\* デジタル工事写真の小黒板情報電子化対応ソフトウェアの一覧(JACIC)

\* 信憑性チェックツール(無償)(JACIC)

<<http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index.html>>

## 3. ツールの構成

電子小黒板の活用には次の3つのツールやソフトウェアを構成する必要がある(図-1)。

- ①撮影ツール: スマートデバイス上で動作し、電子小黒板の作成と工事写真の撮影を行う。使用頻度の高い黒板の保存や豆図の登録、読み込み等もこのツール上で行う。
- ②取込みツール: 撮影ツールと写真管理ソフトを繋ぐ役割を担う。クラウドサーバーを経由する場合や Wi-fi による接続、ケーブルによる接続など様々な形式が存在し、ツール毎に異なる。撮影ツールと一体の場合もある。
- ③写真管理ソフト: 事務所のパソコン上で動作し、取り込んだ写真を工程・種別などを基に自動的に振り分け、写真に改ざんがないかをチェックする。必要に応じて写真タイトルなどの情報を付与し、電子納品形式で出力したデータを発注者へ提出する。



図-1.電子小黒板活用に必要なツールやソフトウェアの概念図

## 4. 各ツールやソフトウェア間の互換性(2017年1月28日現在)

市販の撮影ツールや写真管理ソフトウェアを選択する際に注意しなければならない事項として互換性の問題がある。図-2に現在市販されている各ツールやソフトウェア間の互換性を示す。互換性のない組合せでは EXIF 内に格納した工程・種別・細別等のデータが正しく認識されず、自動振り分け機能等が動作しない。導入にあたっては各ツールの互換性を開発会社に確認する必要がある。

写真撮影ツール・ソフトウェア		取込み時のクラウド契約	互換性	写真管理ソフトウェア	
製品名/(開発会社)	OS			製品名/(開発会社)	
SiteBox 出来形・品質・写真 (株式会社建設システム)	iOS・Android	必要	●	写管屋 Ver7.25以降 (株式会社建設システム)	
現場端末システム X-FIELD (福井コンピュータ株式会社)	Windows	必要無し	●	EX-TREND 武蔵 写真管理 Ver17以降 (福井コンピュータ株式会社)	
SnapChamber電子小黒板アプリ (リコージャパン株式会社)	iOS	必要	●	現場Office (株式会社現場サポート)	
現場DEカメラPRO (ダットジャパン株式会社)	iOS	必要無し	●	現場編集長CALSMASER Ver17以降 (ダットジャパン株式会社)	
			●	PHOTOMASTER Plus Ver4.6以降 (ダットジャパン株式会社)	

図-2.電子小黒板対応ソフトウェアの互換性(未発売の製品および自動振り分け機能未対応の製品を除く)

## 5. 従来方式との混在(活用が難しい工種や条件)

国土交通省に確認したところによると、2017年2月1日以降に入札手続きを行う工事では、特記仕様書に「デジタル工事写真の小黒板情報電子化」について記載されるが、それ以前の契約済み工事でも活用でき、どちらも監督職員の承諾が必要となっている。また活用する場合も工事の全ての工種が必須ではなく、部分的な活用を認めている。また不測の事態により撮影できない場合は、従来方式(物理的小黒板利用)の撮影を併用することも認めている。以下に活用が難しい工種や条件を示す。なお、対象工事は当面旧建設系の土木工事(道路・河川分野)のみとなる。

- ・スマートデバイスのカメラ性能に依存するため照明不足のトンネルや地下、夜間の利用は厳しい。
- ・湿気や粉塵の多い場所では故障したり、鮮明な写真が撮影できない場合がある。
- ・耐衝撃性能を有するデバイスは限定的で、一般的に小型・薄型なので、破損しやすい。

## 6. 電子納品への対応

電子小黒板を採用した工事写真については、その全てを信憑性チェックツール(2.信憑性の担保を参照)にかけ、信憑性確認結果のCSV ファイルを電子納品する必要がある。同 CSV ファイルの保管場所や提出方法については、監督職員と協議し、決定した内容を工事打合せ記録簿に残しておかなければならない。日建連としては信憑性確認結果のCSV ファイルを保管する場合に電子納品チェックシステムでエラーとならないように、一つの例として「DISK1/PHOTO/PIC」フォルダに保管することを推奨する。